

一三五〇年前の戦い・壬申の乱

吉野町役場産業観光課 中東 洋行

1 壬申の乱とは

時をさかのぼること一三五〇年前、日本の古代史上で最大の戦いともいわれている「壬申の乱」がおこりました。この戦いは、乙巳の変（大化の改新）以降の時代を、陰に日向にささえてきた天智天皇（中大兄皇子）の後継ぎの座をめぐるおこなわれました。

少し時をさかのぼって、当時の情勢を確認しておきましょう。当時の東アジアはまさに激動の時代。中国大陸では大國・唐が勢力をひろげ、その影響をうけて、周辺諸国でも各地で戦いがおこっていました。当時の日本も参戦した、朝鮮半島での戦い「白村江の戦い」もその一つです。この戦いで、日本は唐・新羅連合軍に大敗。自国の弱さを痛感することになります。「白村江の戦い」後の日本は、唐が攻

めてきたらどうしようか、また、今後は唐や新羅といった国々とのように付き合っていけばまいかと、外交面で難しい問題に直面することになります。

外交を中心に課題が山積みのなか、国の舵取りをしたのが天智天皇でした。その後を誰が受け継ぐか。当時は大問題だったことでしょう。この時に後継の座を争ったのが、天智天皇の弟・大海人皇子と天智天皇の息子・大友皇子でした。

2 戦いの前夜

なぜ大海人皇子と大友皇子は戦ったのでしょうか。そのはじめは天智天皇が亡くなる3か月前にさかのぼります。

その頃、病氣でふせつっていた天智天皇は、自らの死期をさとつたか、自身の枕元に大海人皇子を呼び寄せます。そし

大海人皇子を見送った天智天皇の側近たちは、その姿を見て誰ともなく「虎に翼をつけて放つようなものだ」とつぶやいたそうです。そして、大海人皇子が吉野に入った間もなく、天智天皇はお亡くなりになったのです。

3 戦いのはじまり

大海人皇子が吉野宮で半年をすごしたころ、皇子の耳にたとある報告が入ります。その報告をしたのは、大海人皇子とともに吉野で過ごしていた部下の一人でした。「私用で美濃に行きましたところ、大友皇子が出入を禁めておりました。天智天皇のお墓を造るためですが、もしかしたら吉野を攻める準備をしているのではないのでしょうか。」

また、別の者がこう報告しました。

「天津の都と吉野の間の要所に兵がいて、吉野への物資運搬を邪魔しています。」

大海人皇子が確認させたところ、どうやらこれらの報告は事実の様です。状況証拠といえる、吉野に向けて兵を出す準備をしているように思えてなりません。出家までして身をひいたのに、どうしてこのまま黙って殺される必要があるのか。」

て、「次の天皇はお前に任せたい。」と伝えたのでした。

天智天皇の言葉を聞いた大海人皇子は、疑念をいだきます。というのも、天智天皇の枕元に向かう途中、迎えにきた側近から、「天智天皇からの質問には、注意してお答えになった方がよいですよ。」と忠告をうけていたからです。この天智天皇の言葉をワナだと考えた大海人皇子は、天智天皇からの提案を断り、「吉野で出家し、天智天皇の病氣が治るよう、お祈りしたいと思います。」と答えたのでした。

それからの大海人皇子の動きに迷いはありませんでした。その日のうちに、自分の手元にあった武器を全て返し、頭をまるめました。そして、天智天皇から袈裟をもらい、数日のうち吉野へと出発したのです。吉野へ向かう途中まで大

大海人皇子は戦いを決意されたのです。この出来事から一ヶ月後、数人の部下を美濃に先行させ、大海人皇子は吉野を出発します。そして、一路、現在の関ヶ原を目指されたのでした。

その道中、大海人皇子は現在の伊賀市あたりで息子の高市皇子と合流、四日市市あたりで天照大神を遠く拝み、もう一人の皇子・大津皇子と合流されます。その後、桑名市で夫人の鵜野讃良皇女とのこし、三重県・愛知県・岐阜県の人たちを味方につけて、関ヶ原に味方を結果させました。その後、戦いの指揮を息子の高市皇子にまかせ、大友皇子のいる大津へと攻めこんだのです。最終決戦は、瀬田の唐橋で行われました。

4 奈良で活躍した別働隊

同じとき、いまの奈良県内では大伴吹負ひきいる別働隊（大海人派）が戦いを続けていました。別働隊は、「我こそは高市皇子だ」と偽りの名乗りをあげて戦ったことで、大津の都の人々にはさぞ混乱したもので、彼らの活躍で要衝・飛鳥の都は大軍に奪われることはありませんでした。またこの別働隊のために、大

友皇子たちは関ヶ原から攻めてくる大海人軍に集中できなかったことでした。

ちなみに、この別働隊の動きを大海人皇子に報告したのが大伴安麻呂。令和で有名となった、あの大伴旅人のお父さんでした。壬申の乱の後、大伴一族はその活躍を認められ、大きく取り立てられることになります。壬申の乱がなければ、大伴旅人の出世もなく、「令和」の言葉はうまれなかったかもしれません。

5 壬申の乱は語り継がれる

壬申の乱の後、大海人皇子は即位して天智天皇となり、飛鳥に都をもどします。そして、飛鳥浄御原宮の造営を飛鳥浄御原令の制定などをおこないました。また、藤原宮・藤原京の造営構想や、宗教の保護、八色の姓（新しい朝廷の身分秩序）の制定といった取り組みをすすめたのです。こうした活躍から、天智天皇「浄御原天皇」とも）は歴史上の著名人として、後の時代の文学作品や各地の伝承で長く語り継がれることになったのです。吉野町内にも、大海人皇子の伝承は多く残っています。皆様的身近にもないか、この機会に探してみてください。

